



Title	運用会議報告 大阪大学大型計算機センターニュース No. 6
Author(s)	
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1971, 6, p. 44-45
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/65153
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

④ 運用会議報告

第20回全国共同利用大型計算機センター運用会議が次のとおり開催された。

日 時 昭和46年9月17日（金）

場 所 名古屋大学大型計算機センター会議室

議 事

I 報告事項

各センターの現況について報告があった。

II 承合事項

将来のセンター運用と管理について

とくに、時間外の運転とシステム管理およびメーカーSE駐在の問題について、各センターの実情が述べられた。

III 審議事項

1. TSS の利用基準について

TSS 端局の利用基準に関し、すでに実施しているセンターの実情について意見交換があり、なお、いくつかの問題に関して、今後とも検討を継続することになった。

2. 運用会議議事要旨の広報への掲載について

運用会議議事要旨を会議開催校が作成し、各センターでそれぞれの広報に掲載することになった。

3. 利用負担金問題について

料金・負担金問題小委員会から中間報告があり、次の点を了承し、さらに検討することになった。

1) 金額は、A（一定値）+BT（CPUTに比例する部分）とすることは望ましいという意見もあるが、各センターの現状を拘束するものではない。

2) 同一機種の計算機については、原則として、負担金額はほぼ同一であることが望ましい。

3) この問題については、広報等により利用者にも充分周知する。

4. その他

1) 学部学生の卒業研究のための計算機利用に関して、指導教官が課題を申請し、その責任において、バッチ・ジョブに限って利用させることを、京都大学が試験的に本年度実施することを了承した。

2) TSS 端局のコンパティビリティに関して、センター長連名で各メーカーに協力を申し入れることになった。

3) 運用会議は、今後3ヶ月ごとに開催することになった。

4) 日本学術会議情報科学小委員会から、学術研究用大型電子計算機に関する将来計画
(原案)について報告があった。

以 上